



秋田県退職校長会結成 50 周年を祝して

秋田県退職校長会 顧問 千葉 昭

県退職校長会との関わりは、平成 12 年 10 月、第 28 回東北地区退職校長会協議会秋田大会がパークホテルで開催された折り、廻り合わせで現職校長会を代表して祝辞を述べたのが始まりでした。

それまでは、現職退職校長会合同懇談会に出席しても居並ぶ先輩退職校長に近寄り難く敬遠しがちでした。近年は、退職して間のない若手が幹事役を引き受けてくれるようになり現職校長会との壁も改善されてきたように思われます。

秋田県退職校長会は郡市退職校長会の連合機関として会員相互の研修並びに親睦を図ってきました。毎年、秋季研修大会では、講演会や各郡市退職校長会から多岐にわたる充実した発表があり貴重な研修の場になっています。

平成 24 年度の秋季研修大会で「フクシマは今」と題した車田喜宏福島県退職校長会長の講演がありました。佐藤重義本県会長は、総会で支援のための募金を提案し、各郡市退職校長会会員に協力を呼びかけました。

短期間で約 130 万円の支援金の協力があり、福島市へ赴き、直接鈴木会長へ手交しました。

この支援金を元に福島県退職校長会では「ぬくもり基金」を設置し、運営等に苦慮している支部の再興・復興に有効活用されているそうです。

本県は、全国学力学習調査で 12 年連続トップクラスの成績を収めています。その原動力は、学校の教育力であり、教師の授業力や自己研修の在り方が大切な要素になっています。

県退職校長会では、研修委員会を立ち上げ大量退職時代を迎え、教師の資質向上に役立てる研究成果が待たれるところです。

秋田県退職校長会は、結成 50 周年を迎え、関係諸団体のご支援ご協力に感謝を致すと共に、先輩諸氏の偉業に敬意を表します。

今後とも郡市退職校長会と連絡を密にし、関係諸団体との連携を図り、県教育の振興に寄与すると共に会員相互の研修・親睦を図ってまいります。

年間の会議開催、会報の発行

総会：昭和44年度から、年1回開催。

各郡市長会：昭和50年度から、年1回開催。

「秋田県退職校長会会報」：昭和51年度から、年1回発行。

「会報」：昭和52年度から、年2回発行。

秋季研修大会：昭和55年度から、年1回開催。

郡市事務局長会議：平成5年度より、年1回開催。

郡市長・事務局長合同の会：平成13年度より、年1回開催。

年度毎の主な会議、行事

昭和44年度（結成年度）

10/25 第1回秋田県退職校長会総会（結成総会）。会員数79名。

事務局は協栄生命ビル教育公務員弘済会内に置く。

昭和45年度

全連退理事会・総会で45年度より全連退に加入する旨を申し入れた。

昭和47年度

事務局を明德小に移す。

老人医療・福祉政策・退職校長会に対する公的補助の実情調査を実施。

昭和48年度

事務局を築山小に移す。

正副会長、常任理事特別会を開催「組織強化の方策として、個人加入を発展的に解消し、各郡市単位の退職校長会を結成し、県は、その連合体に組織替え」を立案。

昭和 49 年度

連合体組織結成のための郡市代表者会開催。案件として「経過報告、各郡市の退職校長会結成状況と連合体への加入の可否」。

体制が連合体結成に賛成の見込みのため、「秋田県退職校長会」の組織替えを決定し、組織替え総会の開催を決定。

連合体組織とするとき『(1)各郡市で独自性を持ち責任ある活動のできる会を結成すること (2)各郡市の退職校長会は必ず県の連合体に加入すること (3)各郡市の会は小範囲の同一地区に組織されるから、連絡や集合に便利であるので活発な活動をすること (4)各郡市が独自の会で会っても、県の連合体に理事や代議員を送り、県の連合体の総会や理事会等の決定事項には従うこと (5)各郡市の会は連合体への負担金として、総会決定の会費の会員数分を納付すること (6)県の連合体の名称は「秋田県退職校長会」とすること (7)全連退への加入は県の名において加入すること』を主な約束条件とした。

事務局を協栄生命ビル教公弘内におく。

昭和 50 年度

ヨーロッパ旅行実施（本会主催）。

昭和 51 年度

東北地区協議会開催。

昭和 54 年度

会則一部改正「事務処理のため幹事をおく」として、幹事を委嘱。

「秋田県退職校長会結成 40 周年記念式典」を開催。

「結成十周年記念（特集号）」発行。

昭和 55 年度

「秋田県教育を語る会」開催。

「秋田県退職校長会会員名簿」作成。

昭和 57 年度

東北地区協議会開催。

昭和 58 年度

会費年 1,100 円に値上げ決定。

昭和 61 年度

年会費 1,300 円に値上げ決定。

昭和 62 年度

「青少年健全育成五運動推進の実施計画」を常任理事と幹事で樹立。

昭和 63 年度

「青少年健全育成五運動の推進と方策」について郡市の実情を話し合う。
東北地区協議会開催。

平成元年度

結成二十周年記念式開催。

平成 2 年度

総会で、会員名簿改訂、大阪万博・京都祇園祭見学を承認。

平成 3 年度

明年度より、会費 1,500 円、名誉会員制（88 歳以上）導入を承認。

平成 6 年度

生涯学習実践録編集委員会開催、生涯学習実践録集刊行。
東北地区退職校長会協議会開催。
結成二十五周年記念秋季研修大会開催。

平成 7 年度

改訂会員名簿を各郡市へ配布。

平成 9 年度

県教委へ「教育の日」制定の陳情。
「生涯学習実践録集第二集」刊行。

平成 11 年度

総会で、「教育の日」制定推進決議を採択。

結成三十周年記念式典・秋季研修大会開催、「結成三十周年記念誌」発行。

平成 12 年度

東北地区協議会開催。

平成 14 年度

「教育の日」制定準備委員会開催。

平成 15 年度

事務局移転（高橋宏方へ）。

「教育の日」制定準備委員会構成団体会長会開催。

平成 16 年度

事務局移転（秋田大学教育文化学部同窓会「旭水會」内へ）。

生涯学習実践記録第三集「生きがいを求めて」発行。

平成 17 年度

「あきた教育の日」制定推進協議会設立総会。

「あきた教育の日」を県議会本会議で請願採択。

第一回「あきた教育の日」制定推進大会

平成 18 年度

東北地区退職校長会協議会。

「あきた教育の日」制定推進大会。

平成 19 年度

第三回「あきた教育の日」制定推進大会。

平成 20 年度

「あきた教育の日」制定・推進県民会議で、「あきた教育の日」を定める要綱案を承認、同日付で施行。「あきた教育の日」制定記念フォーラム開催。

平成 21 年度

「あきた教育の日」制定推進協議会で会の名称を「あきた教育の日」推進協議会に変更。

秋田県退職校長会結成 40 周年記念式典開催。

平成 22 年度

「あきた教育の日」推進協議会事務局長会開催。

平成 23 年度

「あきた教育の日」推進協議会理事会開催。

平成 24 年度

東北地区退職校長会協議会秋田大会開催。

平成 30 年度

東北地区退職校長会協議会秋田大会開催。

令和元年度

秋田県退職校長会結成 50 周年記念事業（記念式典、記念シンポジウム、記念祝賀会）開催。